

## 日米大学生のキャリアと成功に関する意識調査

マット・ベル

カリフォルニア州立大学モントレイ・ベイ校

### 要旨

成功とは何か。日本の大学生とアメリカの大学生が卒業後何の職につくかを決める要因にどのような違いがあるか。また両国の学生は「成功」をどのようにとらえているのかをこの研究で探ってみた。アメリカの大学生37名と日本の大学生35名、合計72名を対象にアンケート調査を行った。その結果、アメリカは個人主義、日本は集団主義を重視する社会と言われているが、その社会ではそれぞれ成功の意味合いが違うことが分かった。個人主義を重視されているアメリカでは社会からの期待が強く反映される一方、集団主義を重視するとされている日本の大学生は家族、友達からの影響が成功の見解には強く反映されていることが分かった。75%の日米の学生の成功は物質的な物で計れないと思っていることが分かった。日本人大学生もアメリカ人大学生も成功するとはどんなことを指すのかという意味では「意欲があり、自ら進んで行動する人」と同じだが、その形容詞として選んだのには日本人は積極的、創造性等があげられたに対し、アメリカ人は自信があること、カリスマ性がある事等をあげた。

### はじめに

大学にいる間私はいつも将来何をやりたいかについてよく考えた。将来成功したいと思い、そのために努力した。一年前日本に留学した時、国際寮に住み様々な国籍の人と会話し、成功について話した。様々な考え方があったが、もっと深いこの分野検討したいと思った。他の人の成功の価値観やそれが国によってちがうのかも知りたいと思った。

### 1. 研究の重要性

私がこの研究を行った理由は大学生にとって成功とは何か。自分が成功しているかどうかについてどのように判断するのか。大学卒業後成功するためにどのような努力をするのかについて知りたかったからである。また日本とアメリカでは、成功のために何が重要と思われているか、自身の経験を通して成功および成功者に関する異文化的認識について研究したいと思った。

## 2. 研究質問

1. 何の職につくかを定める要因は何か。日本の大学生とアメリカの大学生に職種を選択に違いはあるか。
2. アメリカは個人主義、日本は集団主義を重視する社会と言われているがその社会ではどのように成功を計るか。
3. 「成功」ということはどのような言葉で表現されるのか。その特徴にあげられるものは何か。

## 3. 研究背景

まず初めに、成功の定義について延べ、次に仕事、アメリカと日本の成功、最後にアメリカと個人主義、日本と集団主義について説明する。

### 3.1. 成功の定義

広辞苑の定義は目的を達成すること、事業などを成し遂げることである。メリアム・ウェブスタの定義は望んでいることを成し遂げるで、どちらの定義も「富を得ること」は成功を表すとしている (Iwanami Shoten 1991, Merriam-Webster 2006)。

### 3.2. 日本とアメリカの仕事と失業率のデータ

図 1 仕事：就職と失業に関するデータ

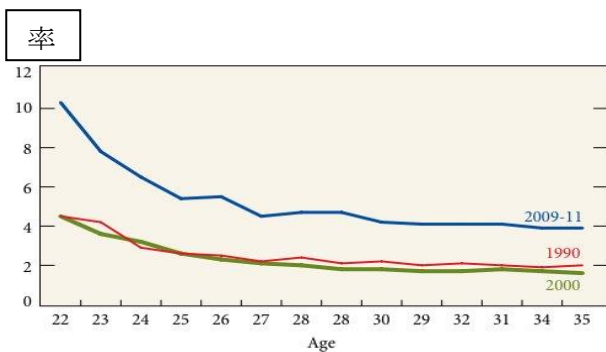


図 2 仕事：大学の専門と就職との関係

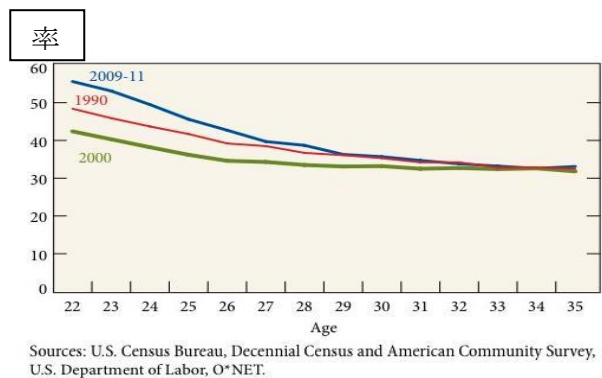


図 1 に示されているように、2009-11 年の調査によると大学新卒者の失業率は 20 年前の 2 倍で、10% ぐらいである。図 2 から分かるように大多数の大学新卒者

は取得した学位と関係ない仕事についている。専門とは関係なくでもとりあえず仕事を手に入れる傾向が増加している。

図 3



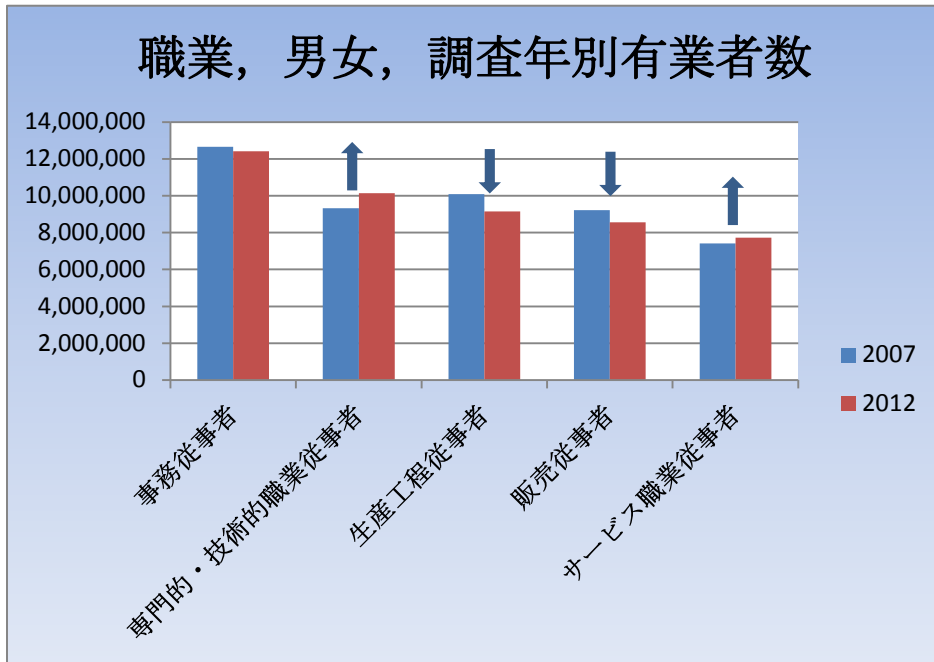
図 4

**Table 4. Employed recent college graduates by degree, occupation, industry, and class of worker, October 2011**  
[Levels in thousands]

Characteristic	Total recent college graduates	Bachelor's degree	Advanced degree
Total employed, ages 20 to 29	995	793	202
Percent distribution	100.0	100.0	100.0
<b>Occupation<sup>1</sup></b>			
Management, business, and financial operations	14.0	11.6	23.2
Professional and related	47.9	42.7	68.3
Service	12.7	15.3	2.3
Sales and office	19.1	23.1	3.7
All other	6.3	7.3	2.4
<b>Industry<sup>2</sup></b>			
Goods-producing	6.4	7.8	1.1
Wholesale and retail trade	10.3	10.0	11.7
Financial activities	6.1	6.7	3.7
Professional and business services	16.0	14.1	23.7
Educational and health services	41.8	38.5	54.9
Educational services	22.2	20.2	30.4
Health care and social assistance	19.6	18.3	24.6
Leisure and hospitality	9.0	11.2	.3
Public administration	3.4	3.2	4.0
All other industries	6.9	8.5	.6
<b>Class of worker<sup>3</sup></b>			
Government wage and salary workers	17.5	15.4	25.7
Federal	2.5	2.1	4.3
State	8.6	8.3	9.7
Local	6.4	5.0	11.8
Private wage and salary workers	81.7	84.0	72.9
All other	.8	.6	1.4

逆に日本は、図 3 からわかるように、2 年間で失業率は 4.6% から 3.6% に減ったことが分かる。しかし 2008 年にあった頂点に比べると現在は 3 ポイント程低くなっている。さらに 24,000 人の新卒者が失業中のままだ。それでもアメリカと比較すると日本の失業状況は改善している。図 4 からわかるように、職業別では、アメリカの 2011 年大学新卒者のうち、専門職の分野では 47.9% が雇用された。業種別では、アメリカの 2011 年大学新卒者の 5 分の 2 が、教育・保健サービスの分野で雇用された。

図 5



この図 5 は 2007 年から 2012 年までの職業のトレンドを示している。調査対象となった 6,400 万のうち、最も数が多かったのは事務従事者である。生産工程従事者と販売従事者は減少し、技術的職業従事者とサービス業従事者は増加した。

### 3.3. アメリカンドリームの実現と現代成功

ここでアメリカンドリームを分析しアメリカの成功を探る。*The American Dream* という本によれば、アメリカンドリームという概念は 18 世紀の独立宣言に端を発した。“生命, 自由, 幸福の追求” がアメリカンドリームの基本である。また 19 世紀には貧しい生活から出発しても、成功者になれた。例えばリンカーン大統領がいい例である (Cullen, 2003)。

アメリカンドリームには 4 つの基本概念が示されている。つまり地位が上がること、平等であること、家を有すること、海岸近くに住むことの 4 つである。海岸というのは「一生懸命働くより、物欲を満たす。質より量」という考え方だ。これは 20 世紀以降より広まった。例えば投資である。働いて給料をもらうより

多くの富を投資によって得ることができる。働かなくても、株の売買で富が得られる。例えばウォーレン・バффアーは天才的投資家だったので、あまり働かないで莫大な富を得た (Cullen, 2003)。

アメリカンドリームという言葉は 1931 年に生まれた。生まれてからまだ 100 年しか経っていない。このころから「誰でも百万長者になれる」のような意識が生まれた。下記表をよく見ると、20 世紀どのように人々の物欲が大きくなってきたかを示している (Samuel, 2012)。有名な TIME 雑誌よれば、「現代の幸せとは伝統的な家庭的幸せを意味しない、むしろ経済的な安定を意味するのが最近の傾向」と書かれている。この情報をアンケートで本当かどうか確かめたいと思った。



#### 3.4. 日本の成功：近代概念

1980 年から 1990 年代の日本のバブル経済は成長と富を溢れさせた時代であった。この時期にたくさんの中間層の若者が金持ちになった。彼らは「成り上がり」と呼ばれた。この言葉は、経済的に高い地位を持つが、年齢と経験不足のせいで、社会的に全然認められていない人を指す。彼らは自分たちのことを「勝ち組」と呼んだ。

「勝ち組と負け組」という概念は 1970 年に生まれ、1990 年代末から 2000 年代初頭に広がった。それより以前は、日本は年功序列社会で、若者は成功と富を得ることができなかった。競争がなかったので、「勝つ」ことも「負ける」こともなかったからだ。ただし産業分野によっては年功序列社会の常識が無視されることもあった。

勝ち組とは「勝ってるグループ」という意味で、勝ち組は社会的に価値があると思われており、例えばお金や、魅力的な妻または夫、を持っている。勝ち組には会社員のイメージが浮かぶ。一方、負け組とは「負けてるグループ」とい

う意味で、他人との比較によって負け組みかどうかを決める。周囲の人に比べ、目標達成の度合いが低い人たちのことだ (Yamada, 2007)。

勝ち組は現在の人生に満足している人々で経済的な責任力もある人を指す。負け組とは結婚していないか結婚できないハイミスの女性を指す。

### 3.5. アメリカと個人主義

アメリカの個人主義については Bellah (1991)は「いい社会とは個人が誰にも邪魔されないで自由に個人的満足を追うことができる社会」、「個人的達成と自己実現が重要」とし、George (2007)は「若い時自分の努力によって人生の成功を得る。時間をかけ、努力して一番になろうとする。ウェストポイントやジェネラルエレクトリックに入るためには一番でなければならない。つまり自分に何ができるかということだ」と言っている。

## 4. 研究

### 4.1. 研究参加者

この研究の参加者は72人で、そのうち日本人が35人、アメリカ人が37人だった。調査方法はインターネットによるアンケート調査を行った。調査用紙は英語と日本語の両方で作成した。

## 5. 調査分析と結果

5.1. 研究質問1: 何の職業につくかを決める要因は何か。日本の大学生とアメリカの大学生に職種の選択に違いはあるか。

図7 将来の仕事のプランの影響

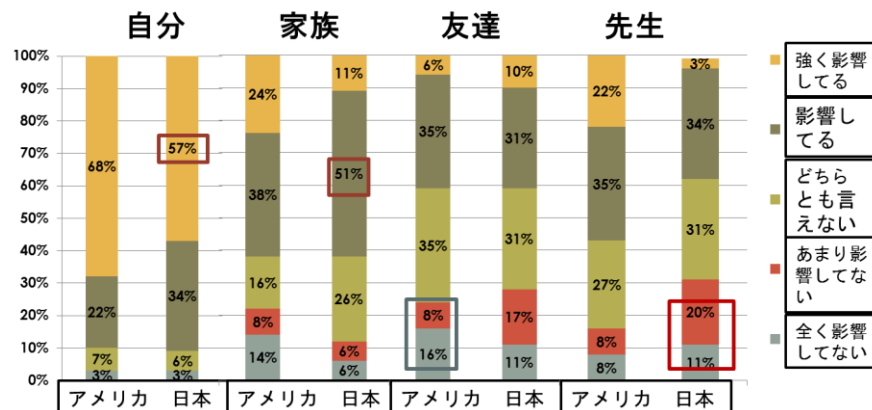
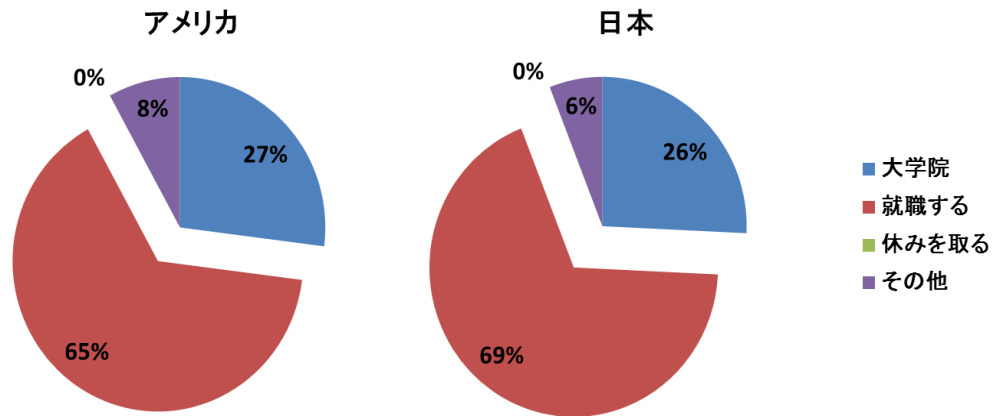


図7からわかるように、「あなたの将来の仕事のプランにどのくらい影響していますか」という質問に対し、アメリカと日本のどちらの大学生も「自分」が非常に影響を与えると答えた。日本人学生はより家族から影響を受けるが友達や先生はあまり影響してない。

図8 卒業後の予定



「卒業後のあなたの予定は何ですか?」という質問に対し、アメリカ人学生と日本人学生は共に「就職をする」と答えた。

先ほどの質問で3人のアメリカ人学生は「その他」という答えを選んだ。

- 軍隊
- 救急隊員になるための学校に行く
- 教職免許を取る

また1人の日本学生は「その他」を選んだ。

- まだ決めてない

図9 「就職する」選んだ方

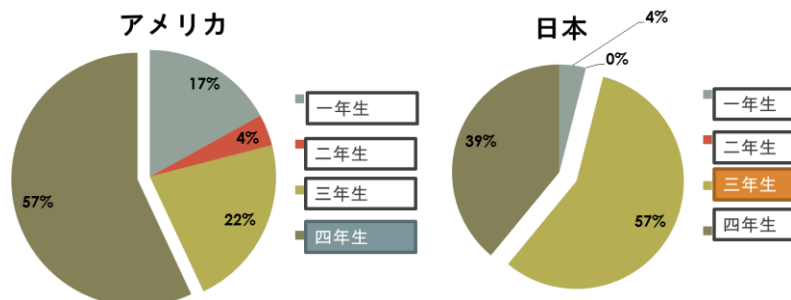
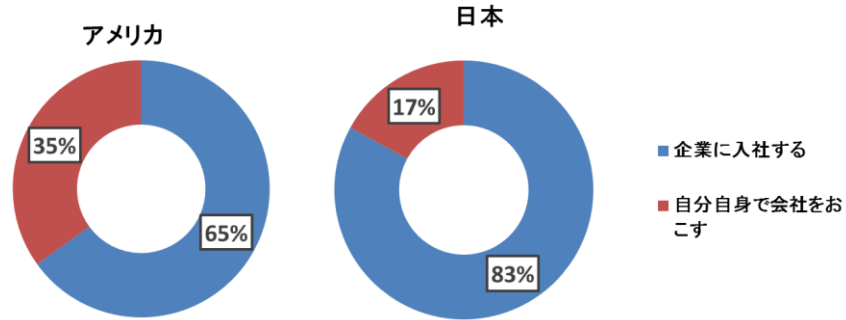


図 8 の結果から、「就職する」と答えたアメリカ人大学生のうち 7 割が「4 年生から」と答え、日本人大学生の 7 割が「三年生」と答えた。

図 10 もしあなたが会社員になったら



「もしあなたが会社員になるとしたら、自分自身で会社をおこし、そこ社員になりますか、それとも企業に入社しますか」という質問では、65%のアメリカ人および 83%の日本人大学生は「企業に入社する」と答え、アメリカ人大学生はより「事業する」と答えた。

図 11 選んだ方の理由

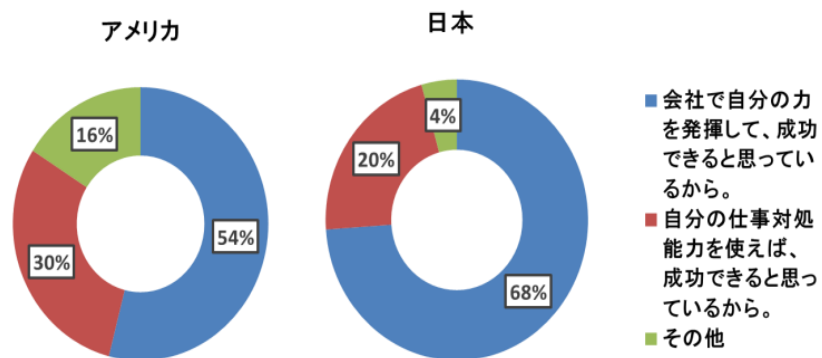
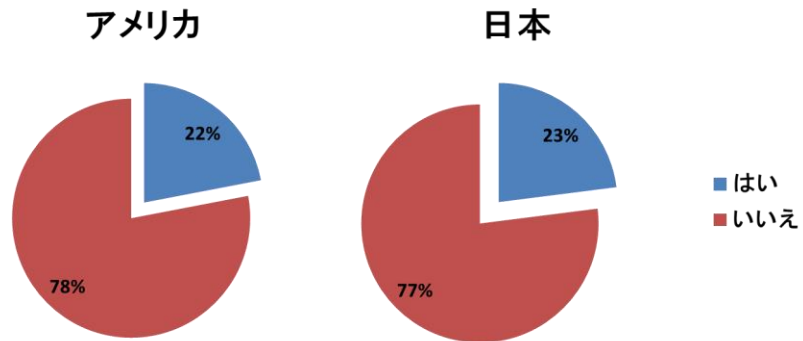


図 11 の質問した答えの理由を聞いたところ 54%のアメリカ人、および 68%の日本人大学生は「会社で自分の力を発揮して、成功できているから」と答えた。上の個人主義情報から、アメリカ人の「自分の能力で成功する」



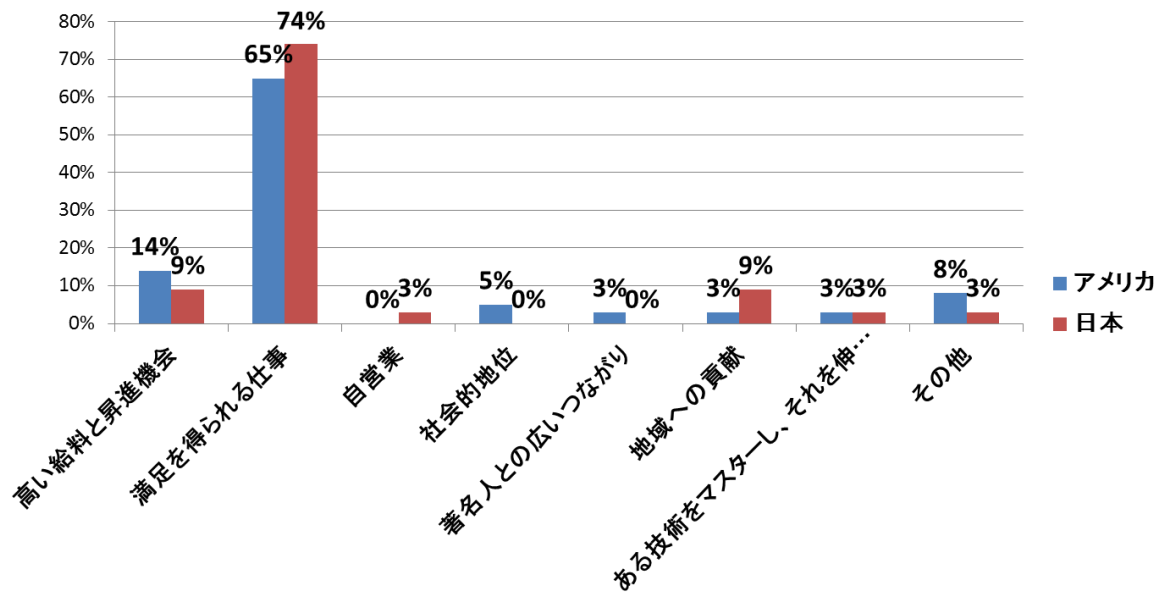
にとってはこの結果は反面している。アメリカ人でも成功をできるようにグループに入ることがある。

図 12 物質的な所有



「物質的な所有があなたの成功度を表していると思うか」という質問を聞いたところ、物質的な所有での成功に対し、面白いことに、どちらの文化も「いいえ」と答えた。最初の成功の代表のはやっぱり物質的な所有ではなくて、両国の重視される成功はお金ではないそうだ。しかし将来の研究にこのデータが本当かどうかを確認したいと思っている。

図 13 あなたの「雇用」と「仕事観」に基づいて、大切だと思う



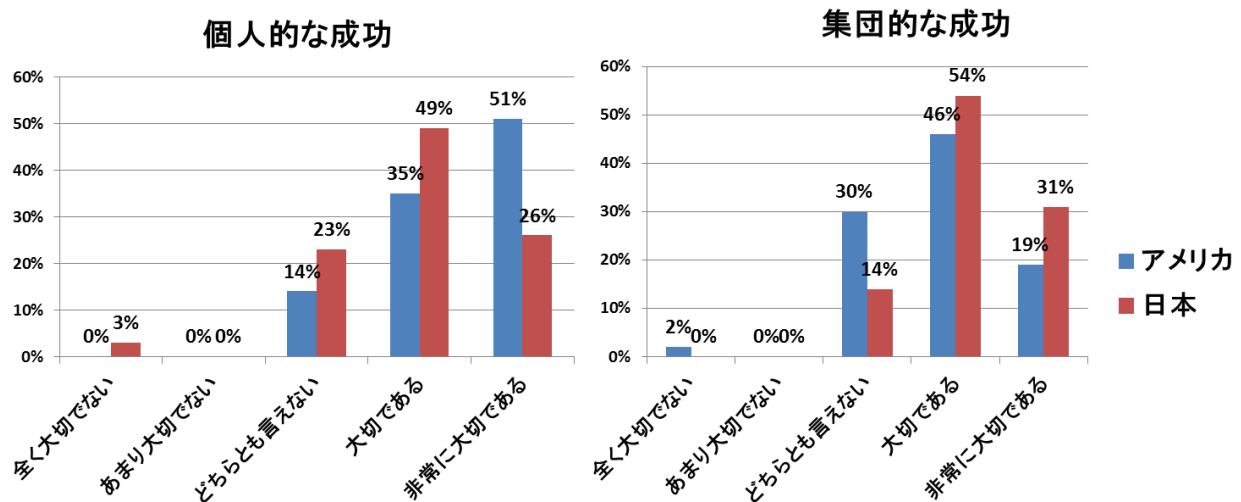
アメリカ人および日本人大学生の大部分は「満足を得られる仕事」だと答えた。高い給料に対し、両大学生はお金を重要視するようであり、同じような仕事を見つけているようである。しかし、この答えから一人一人の「満足」は何だろうか。将来、生活の質や仕事の質からみることにより、より具体的な答えがわかるかもしれない。

### 5.2. 研究質問 1 総まとめ

キャリアを決めるには日本もアメリカの自分でできるがアメリカは先生から、日本は家族からの影響がつよいことが分かった。またあまりか人も日本人も自分で起業するより会社で自分の力を発揮できる起業に就職しあいと思っているようである。最後にあまりか人も日本人も満足を与える仕事を重要視するようである。

5.3. 研究質問 2: アメリカは個人主義、日本は集団主義を重視する社会と言われているがその社会ではどのように成功を計るか。

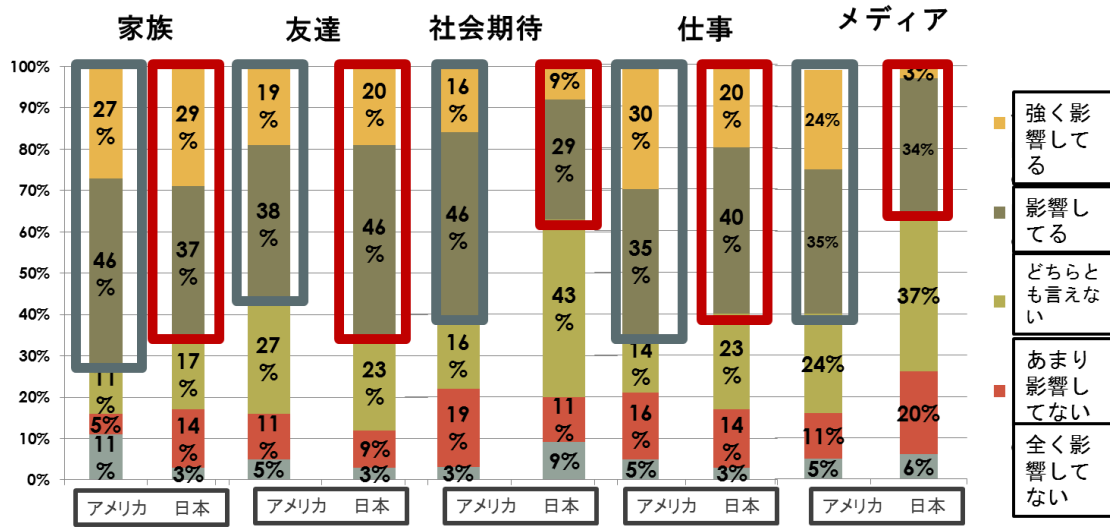
図 14 個人的、集団的な成功はどのぐらい大切



「個人主義と集団主義はあなたにとって成功にどのぐらい大切だと思うか」と聞いたところ、アメリカ人大学生はより個人主義的な成功を、日本人大学生はより

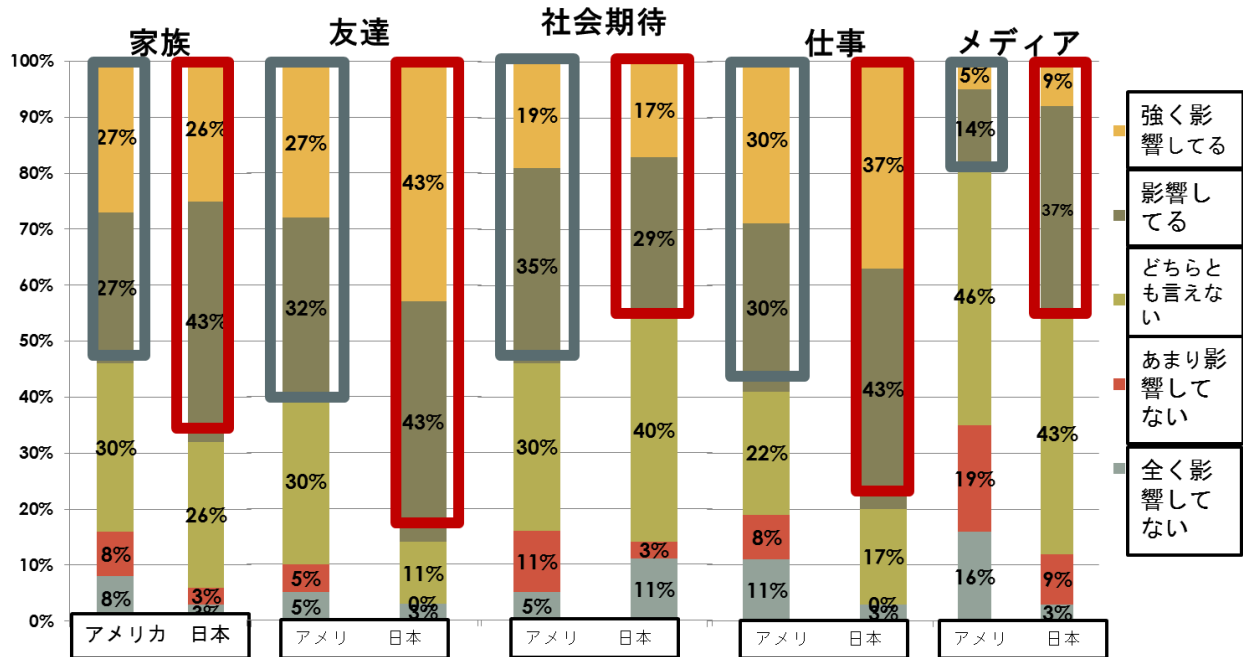
集団主義的な成功を重要視することが分かった。また図 14 から分かるように、アメリカは個人主義文化であり、日本は集団主義を表している。

図 15 個人主義に関する価値観の影響



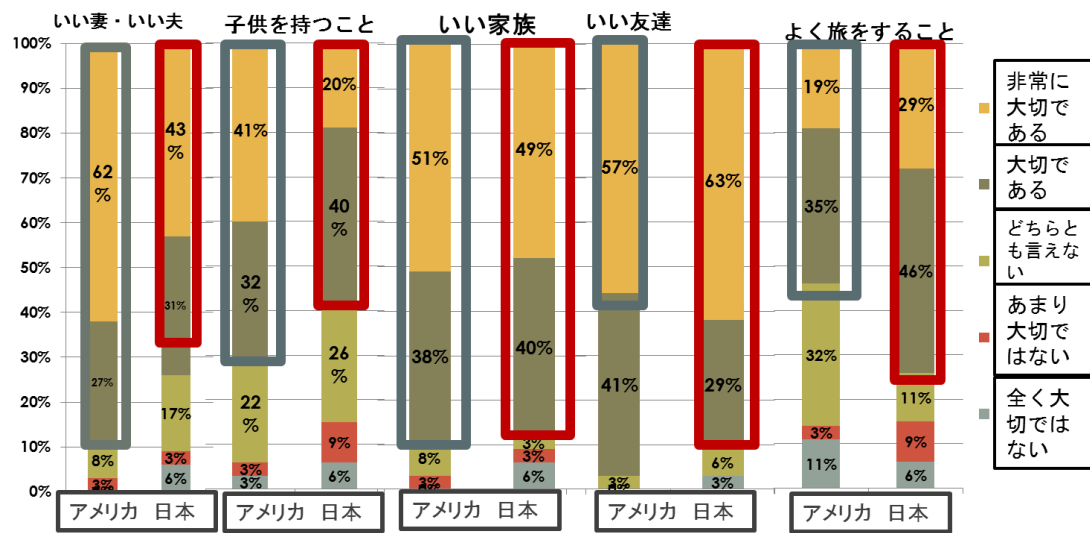
個人主義に関する価値観に影響を及ぼしている項目を聞いたところ、アメリカ人も日本人も家族と友達と仕事の影響があると答えた。また、アメリカ人は社会期待とメディアも影響を与える要因としてあげた。

図 16 集団主義に関する価値観の影響



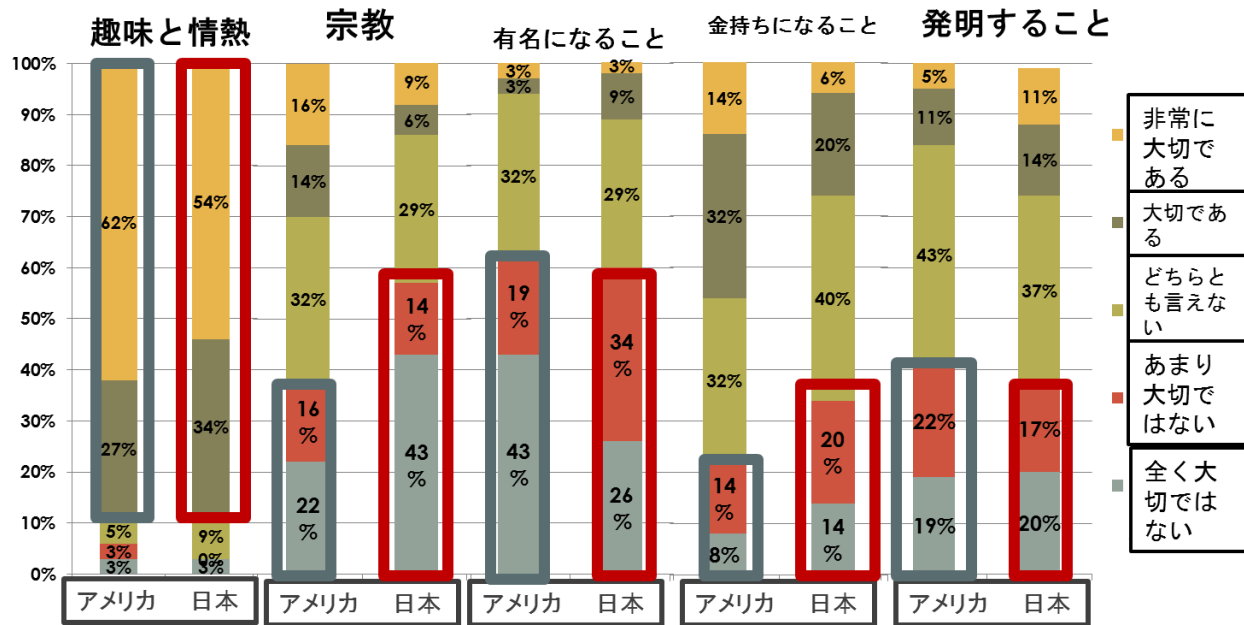
集団主義に関する価値観に影響を及ぼしている項目にはアメリカ人学生は主に仕事だと答えた。日本人大学生は家族、友達、仕事から来ると答えた

図 17 個人成功の大切なこと



アメリカ人大学生は「いい妻・夫」と「子供を持つこと」が大切、だと答えた。日本人大学生は「いい友達」と「よく旅行に行く」が大切だと答えた。どちらも「いい家族」が成功にとって大切であると答えた。

図 18 個人成功の大切物



どちらの大学生も「趣味」が大切で、17図と比較すると、アメリカ人にとって「趣味と情熱」は1位である。それに面白いことにどちらも「宗教を持つこと」、「有名になる」、「お金もちになる」、「発明をすること」はあまり大切ではないことがわかった。また図 18 に示されているように宗教には、アメリカ人も関係がないことが分かった

#### 5.4. 研究質問 2 総まとめ

アメリカ人は個人の成功を重要視し、家族と社会期待にえいきょうされることが分かった。また、成功に大事な物はいい妻、または夫、子供を持つこと、趣味だとしていた。日本人は集団での成功を重要視し、友達と仕事に影響を受け、成功に大切なのは、いい友達、旅行する、趣味だとした。

5.5. 研究質問3：「成功」ということはどのような言葉で表現されるのか。その特徴としてあげられるものは何か。

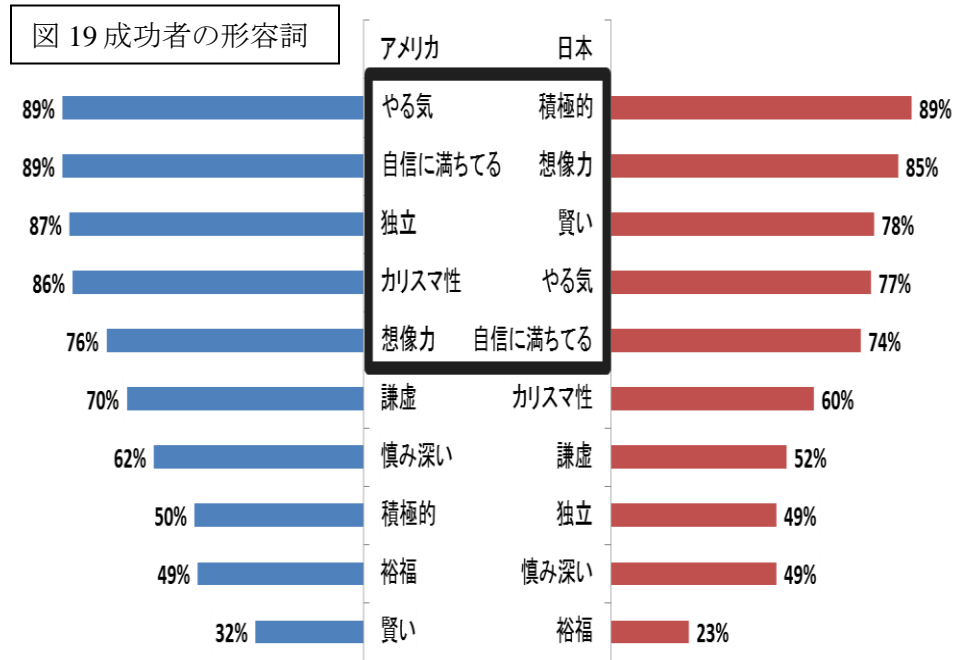
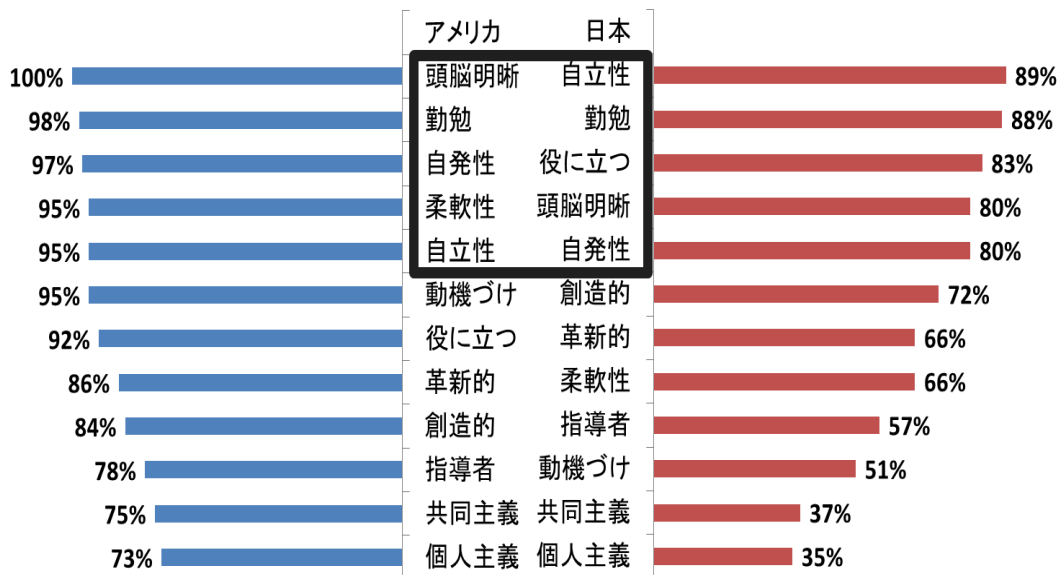


図 19 に示されているように成功者のトップファイブとしてあげられた形容詞はアメリカ人はやるきがある、自信にみちている、独立、カリスマ性、創造力の順です。日本人は積極的、想像力、賢さ、やる気、自信の順で高かった。

図 20 成功者の特徴



成功に必要な特徴をあらわした言葉でトップに選ばれたのは、アメリカは頭脳明晰、勤勉、自発性、柔軟性、自立性、動機付けの順にランクされました。日本は自立性、勤勉、役に立つ、頭脳明晰、自発性の順でした。このことから両国は同じような特徴を重要視していることがわかります。それにアメリカの頭脳明晰の 100%の答えはとても興味深い結果だと思った。

### 5.6. 研究質問 3 総まとめ

成功者の形容詞挙げられたのは日本もアメリカもやるきがある、自信、独立、創造力でした。また成功に必要な特徴として両国に共通して挙げられたのには自立性、勤勉頭脳明晰、勤勉、自発性の四つだった。アメリカ人は100パーセントの頭脳明晰には驚いた。

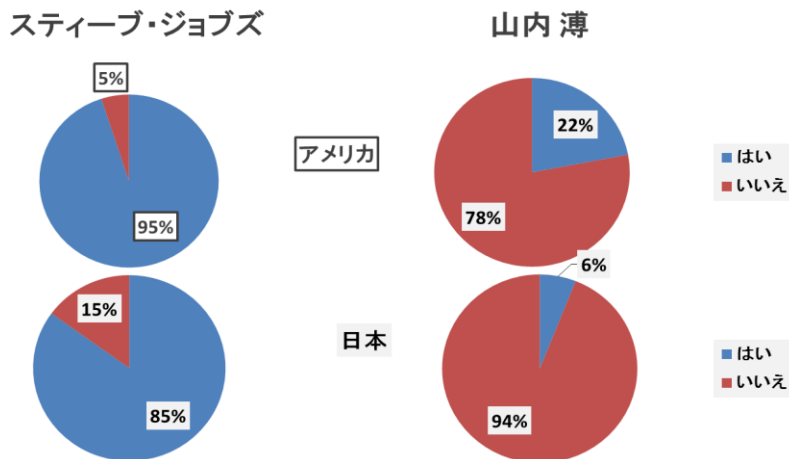
## 6 成功者の研究事例

成功者の事例としてスティーブ・ジョブズ: スティーブ・ジョブズと山内博を選んだ。スティーブ・ウォズニアック、ドナルド・ウェインと一緒にアップル社を起こし、アップル社の会長、および最高経営責任者 (CEO) であった。彼

はアメリカを代表する、企業家であり、マーケティングにすぐれた才能の持ち主で、次々と新商品を生み出す発明家で知られている。彼はコンピューターやスマートフォンを開発をして音楽界や映画界への多大な貢献をしたことでも知られており、メディア配信事業の先駆者である。

山内 溥：山内溥は任天堂の三代目社長であった。山内は小さな花札トランプ製造会社からファミコンで日本のゲーム市場を独占し、日本国内及び国外においてもファミコン時代を築き上げた。任天堂の成功は山内溥の経営哲学が強く反映され、彼が社長を退いた後でも彼の経営哲学は受け継がれ今日にいたっている。フォーブス社は2013年に彼の資産を2100億円（21億ドル）と推定し、日本で13番目、世界では491番目にランクした。

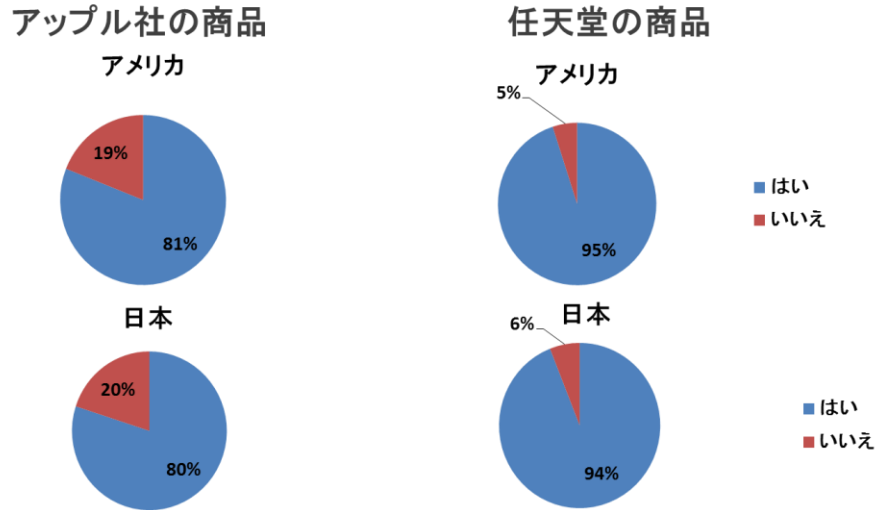
図 21 アップル社/任天堂の商品を持ったことがあるかどうか



どちらの大学生もアップルと任天堂の商品を持ったことがあると回答した。

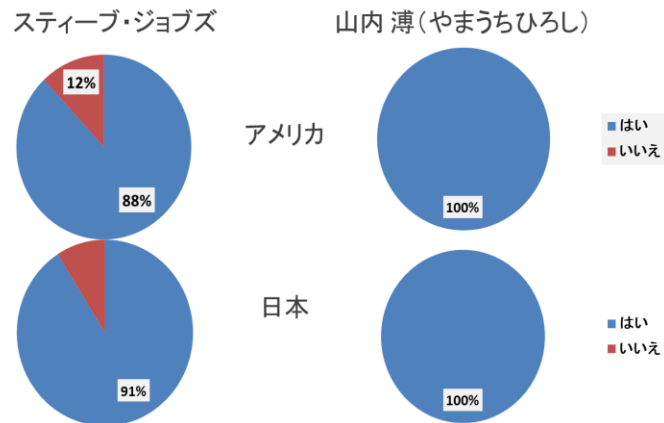


図 22 この二人聞いたことある？



名前だけを回答者見てスティーブ・ジョブズはよく人に知られている、一方で山内は全然知られていなかったことがわかった。

図 23 成功者だと思う



しかし面白いことに、アンケートで上記した山内やジョブズに関する情報を読んだ後で、皆山内のことも会社名から認識しており山内を「成功者」だとした学生の数はアメリカ人日本人共にスティーブ・ジョブズより多かったことに驚いた。

表1 スティーブ・ジョブズが成功者だと思う理由

アメリカ	日本
"技術革新に貢献する製品を作ったから"	"彼は音楽の売り方に革命を起こしたから。"
"0から成功者になった"	"自分のやりたいことを仕事にできたこと。"
"人間的興味とテクノロジーを融合させた。"	"革新的なサービス、プロダクトを作り出し、尚且つ企業自身、社会個人にどの枠組みにおいても莫大な利益をもたらしたから。"
"人を鼓舞することのできる指導者"	"今やほとんどの人がアップル製品を持っている。"
"カリスマ性があり、頭脳明晰"	"人々の暮らしを便利にしたからです。"
"たくさん金を稼ぎながら、世界に貢献した"	

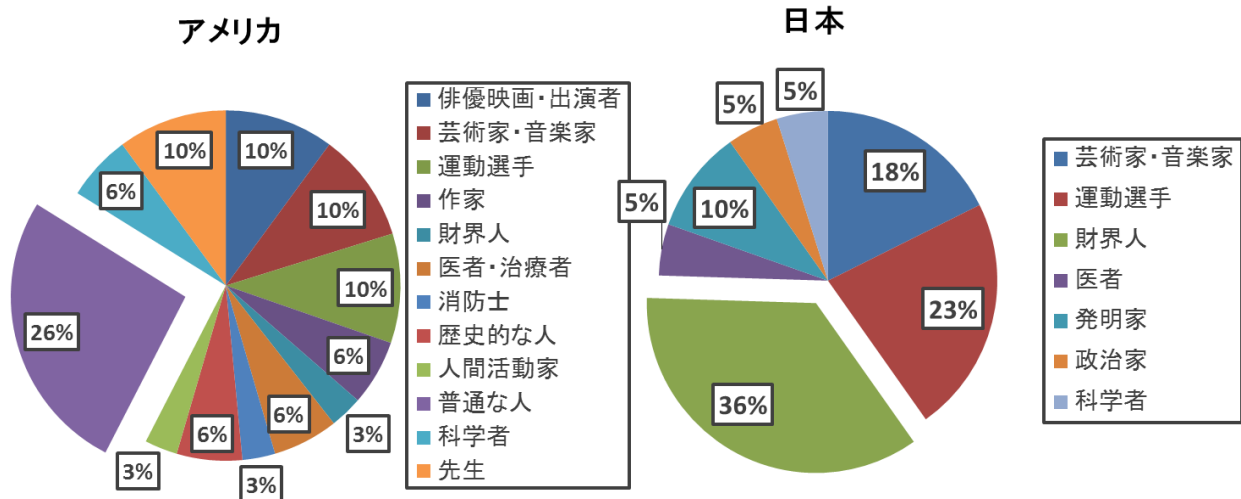
どちらの学生もジョブズのテクノロジーとビジネスにおける成功を理由としてあげた。アメリカ人学生は「性格」と「お金」を理由にあげ、日本人学生は「音楽の売り方に革命を起こした」と「自分のやりたい仕事」を上げた。

表2 山内博が成功者だと思う理由

アメリカ	日本
"スティーブ・ジョブズと同じく成功した会社を作り上げた。"	"彼もスティーブ・ジョブズと同じように、作りたい物を作り上げ、人々を楽しませると共に、彼自身の目標を達成していったのだと思う。"
"小さい会社から大きい会社にしたから。"	"小さな会社から世界的に有名な会社にしたから。"
"任天堂の製品は独創的で、創造的で、とっても面白いから。"	"世界に流通するレベルの商品を作り出したため成功者である。"
"私は任天堂のおかげで、ゲーマーになったから。"	"ゲーム産業を世界に拡大できたから。"
"ひとつの企業を誰もが知る会社にするにはほとんど不可能だから。"	13 番目お金持ち人だから。

どちらの大学生も山内博をスティーブ・ジョブズのような成功者と考えている。アメリカ人大学生は山内の創造性を理由にあげる人は多く、一方日本人学生は彼のビジネスにおける成功を理由に挙げる人が多かった。

図 24 あなたにとっての成功者



最後に回答者が成功者だと思う人の名前と職業を書いてもらった。その結果アメリカ人の成功者の名前は様々で職種からみると普通な人でした。日本人の場合は会社員と運動選手の名前が多かった。

### 6.1. 研究事例総まとめ

この研究事例の結果からアメリカのジョブスと日本の山内の差がアメリカの個人主義、日本の集団主義にあらわれていた。両者ともテクノロジー世界に深く貢献していたが日本の山内溥は会社名としてはよく知られていたが個人の名前はしられていないことが日本のグループの成功を重んじる姿勢がよく反映されていると思った。またアメリカ人が成功者として身近にいる普通の人の名前を挙げたことにはやはりアメリカのアメリカンドリームが反映している気がする。

### 7. 考察

アメリカと日本では、どちらの大学生も同じような卒業後のプランを持ち、成功したいと思っている。面白いことにどちらの大学生も成功を金銭的、物質的な所有では計ってはいない。これは個人の成功について、アメリカ人の答えは私のバックグラウンド研究結果と雑誌 TIME の情報では矛盾していると思った。成

功者としての特徴は日本人もアメリカ人も同じ結果がでたことにグローバル化の反映が見られた。

## 8. 将来のための研究課題

この研究をふまえ、将来は世代ごとの成功の違いとは何か、大人へ成長するにつれてどのように成功への認識が変化するのか。「満足を得る仕事」に含まれる要素は何か。成功に対し失敗とは何か？等をもっと深く研究したい。

## 参考文献

- Bellah, R. N. (1991). *The Good Society*. New York: Knopf.
- Cullen, J. (2003). *The American Dream: A Short History of an Idea That Shaped a Nation*. New York: Oxford University Press, Print.
- Doi, T. (1973). *The Anatomy of Dependence*. [1st ed. Tokyo: Kodansha International ; [distributed by Harper & Row, New York, Print.
- George, B. (2007). *True North: Discover Your Authentic Leadership*. San Francisco, Calif.: Jossey-Bass/John Wiley & Sons,. Print.
- Huber, R M.. (1971). *The American Idea of Success*. [1st ed. New York: McGraw-Hill, Print.
- Moeran, B. (1984). *Individual, Group and 'Seishin': Japan's Internal Cultural Debate*. s.l.: [s.n.], Print.
- Sakai, J. (2003). *Makeinu no Tōboe*. Tōkyō: Kōdansha,. Print.
- Samuel, L.R.. (2012). *The American Dream: A Cultural History*. Syracuse: Syracuse University Press, Print.
- Shinmura, I. (1991). *Kōjien*. Dai 4-han. ed. Tōkyō: Iwanami Shoten, Print.
- Webster, Inc. *Merriam-Webster's Dictionary and Thesaurus*. Springfield, Mass.: Merriam-Webster, 2007. Print.
- Yamada, Y. (2007). *The Truth of the Theory of Winner and Loser: Examination from an Analysis of the Determinants of People's Happiness*. JGSS research series 6: 159-167.

## メディアソース

- Japan Unemployment Rate. (2014). Retrieved from <http://www.tradingeconomics.com/japan/unemployment-rate>
- It's An Exceptionally Bad Time To Be A Recent College Grad. (2014). Retrieved from [http://www.huffingtonpost.com/2014/01/16/recent-college-grad\\_n\\_4602772.html](http://www.huffingtonpost.com/2014/01/16/recent-college-grad_n_4602772.html)
- Employment rate for new graduates in Japan now at 93.9%. (2013). Retrieved from <http://japandailynews.com/employment-rate-for-new-graduates-in-japan-now-at-93-9-1729077/>

Employment rate of Japanese college graduates rises. (2013). Retrieved from [http://news.xinhuanet.com/english/business/2013-05/17/c\\_132388808.htm](http://news.xinhuanet.com/english/business/2013-05/17/c_132388808.htm)